

5. 田植機

(1) 点検時の事故

5. 耕耘機等 (1) 点検時の事故

53

田植後、田植機の点検時、クラッチを入れても動かないので、クラッチワイヤーを押したところ、テンションがかかった状態となり、車輪が動き出し、腕が巻き込まれた。右肘靭帯断裂、上腕筋肉断裂。(平成25年6月 午後6時20分 男性・62歳)

事故の概況

田植えが終わり、4条の歩行型田植機の整備点検を庭先でしていた(約25年前購入)。エンジンをかけ、クラッチを入れても動かなかった。そこで、左車輪の間から手を入れ、クラッチワイヤーを手で下に押した途端クラッチが入り、腕が車輪に挟まれたまま回転し、自分自身も一緒に回転するように引きずられ、車輪の4分の3位回転し、約1.5m移動して、エンストした。右手を巻き込まれたまま、力がかからないように自分も回転したが、右手の側の肘の靭帯断裂、筋肉も約3分の2断裂した。左手で車輪を逆回転して手は抜けた。

大声を上げたが雨戸を閉め切っていて聞こえず。持っていた携帯電話で、妻に連絡。妻が救急車を呼び、約10分で大学病院の救急に搬送された。老廃物がしばらく出たので、ようやく5日後手術をした。9月上旬に装具全体を外した。現在もリハビリ中。

現在、左手は腕を曲げると、ほとんど対象の上腕につかえるが、受傷腕の右手は、未だに曲げても直角程度しか動かない。

事故原因と対策

クラッチを切ってから、あるいはエンジンを切って錆止め用の油を噴霧すべきところを、エンジンをかけたまま、クラッチを入れたまま点検してしまった。

以前にSSのベルトのテンションが効かないので、ベルトを押したとき、テンションがかかった状態となり同様にベルトが巻き込まれる事例があった。動作不良の場合は、必ずクラッチ、エンジンを切ってから点検すべきである。



クラッチを入れても動かなかったのでクラッチワイヤーのテンションが甘いと思い、矢印の方向に手で押したところ、突然車輪が回転して、そのまま体も一緒に回転する形で引きずられた。

(2) 移動中の事故

5. 耕耘機等 (2) 移動中の事故

54

初めて使用する4条乗用田植機で、田植え終了後圃場から出るため前進したところ、前輪が浮上、右後輪が田から出たとたん左折前進を始め制御不能。前方の川に田植機が落下。当人は田植機右側畦畔に飛び降り、右足首剥離骨折。

(平成25年6月 午後2時頃 男性・34歳)

事故の概況

初めて使用する乗用田植機で初田植えをする。最初に農機店員が同乗し操作の説明を受け、その後、単独で田植え終了。

圃場から出るため畦と直角に田植機を対面させ、圃場に侵入した時の轍上を通過しようとした。乗車したまま前進でゆっくり畦畔に上がろうとしたところ前輪が浮き上がった。体を前方に倒し、重心を前に移動させようとしたが、右後輪が先に畦畔に上がったため機体が左折して、横の川に転落すると予感し、機体右側、橋側手前畦畔に飛び降りた。機体は左後輪も畦畔に上がりそのまま川に転落した。

田から這い上がり痛みをこらえて仕事をそのまま続け、1km離れたライスセンターまでクラッチ操作をできるだけしないように心がけ2往復する。痛みがあったため3～4日は湿布をして安静にしていたが痛みが取れないため整形外科を受診。病院では湿布と包帯でギプスはしなかった。



事故原因と対策

乗用田植機の運転が初めてで操作に慣れていなかった。特に、畦越えする時に機体前方にハンドル操作できる機能がついていることを販売店で説明を受けたが、いつも大丈夫との過信から乗ったまま操作した。

なお、自分自身でそそっかしい性格で、かつ午後3時から会議があり昼までに終わらそうと気が焦っていた。



6. 精米機

6. 精米機 点検中の事故

5 5

精米機のスクリューを取り外すときにスクリューを手に落とし、人差し指を複雑骨折した。
(平成25年7月 11時40分頃 女性・36歳)

事故の概況

事故当日は、8時30分にぶどう園に行き、ぶどうの房の選別作業を行う。

この頃は、社長が入院していて仕事がたまっていたり、ぶどうの房をどの程度選んでいるのかわからず、悩みながら作業を行っていた。米の注文があったので、10時30分頃から精米所で精米作業を始めた。しかし、精米機のスクリューに玄米の



精米機の後ろに取り付けてある搬送用ベルト。このベルトを外して、スクリューを外す。壁と精米機の幅が30cmくらいしかなく、スクリューの取り外しがやりにくい。また、窓もなく締め切った精米所であり、暑い中、汗だくになりながらの作業。スクリューを外した途端、右手に落ち人差し指複雑骨折。

油が付着して、米を流す量が極端に少なく、このままでは精米機が止まってしまうため、スクリューをとって清掃を行うこととした。

モーターを切り、玄米を入れる入りの網とスクリューのカバーを外してスクリューを外そうとしたが、いつもは簡単に外れるスクリューがなかなか外れなかった。このため、右片手でスクリューを持ち、手前に強く引いたところ、スクリューが外れて右手の上に落ち、その際スクリューと精米機のカバーの間に右手を挟まれてしまった。

自宅に社長の奥さんがいたので、自宅に駆け込んで奥さんを呼び、奥さんの運転で近くの診療所に行った。事故から10分ほどで治療を受けた。

人差し指は複雑骨折で、場合によっては切断しなければならないような怪我であったが、指を2ヶ月間固定して治すことができた。ギブスをはめている期間は、絶対に手を濡らさないように気をつけた。

事故原因と対策

精米機の後ろは、体がやっと入る程度の広さであり、狭い中でスクリューの取り外しを行っていた。また、精米所は窓が無いため、非常に暑い中での作業であった。精米所を作ったときは冷房を入れていたが、精米機が結露してしまうので、2年ほどで冷房はやめた。このため、暑い中での精米作業であり、汗をかきながらの作業であった。

慣れている作業で、いつも簡単に外れるスクリューが、今回はなかなか外れなかった。そのため、力いっぱい引いたら、スクリューがガタンと落ちたため手を挟んでしまった。

精米機の清掃がやりやすい構造に改善するようにしてほしいと思った。